

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立朝日小学校
1 前年度 評価結果の概要	①【学力の向上】…ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを校内研究の柱とし、授業改善を図り、個別指導、協働的な学びを意識した授業改善につながった。 ②【心の教育】…学校が楽しいと思える児童が増えてきており、自己有用感につながっていると考えられるが、否定的な思いもあった。 ③【健康・体づくり】…体づくりを意識している教員と進んで体を動かしているという児童の意識に差が見られた。 ④【特別支援教育の充実】…専門性を高めるための研修を多く重ね、外部との連携を密に取り支援に活かすことができた。特別支援教育が充実し、普通学級の困り感のある児童対応にも活かすことができ、児童の落ちつきにつながった。
2 学校教育目標	自己有用感をもって主体的に学ぶ朝日っ子の育成 ～校訓「元気で勉強 みんな仲よし」～
3 本年度の重点目標	①全員参加のわかる授業(基礎学力の定着) ②志を高める教育活動の推進 ③特別支援教育の充実 ④感謝と思いやりの心の育成 ⑤いじめの未然防止と早期発見対応 ⑥運動週間の改善や定着化 ⑦危険回避能力の育成(防災教育) ⑧愛郷心の育成 ⑨幼保小連携 ⑩教職員の資質向上と業務改善(働き方改革)

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)							
●学力の向上	○主体的に表現できる児童の育成～学習意欲を向上させ、考えをよりよく形成する授業のあり方への探究(校内研究の充実)	○「自分の考えを持って進んで表現できる」と回答した児童が65%以上 ○「主体的な学びを意識した授業づくりを心掛けている」と回答した教員が100%	・対話が生まれる問い・学習課題づくりのため、授業研究会や研修会を設定し共有を図る。 ・個別最適な学びのため、クロームブックの効果的な活用について年5回以上の研修を設定する。 ・学習の振り返りを大事にし、事後の感想や自分の考えをまとめる時間の充実とその活用を図る。						
●心の教育	●児童生徒が「自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員100% ○「思いやりの心をもち人のために進んで動いたり、協力したりできている」の項目で「できる」と回答した児童85%以上	・命や人権について考える学習の充実(平和集会や人権旬間内容の充実)。 ・グリーン鉢運動やボランティア活動の充実。 ・ふれあい道徳や道徳の授業の充実を図る。						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と回答した児童90%以上 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの定義について全職員で再確認し、全学級共通の教材を活用し(生徒指導部作成)、いじめに関わる道徳の授業を行う。(いじめを生まない風土作り) ・なかよしアンケートを定期的に行い、いじめの早期発見を行うとともに、日常観察によりいじめと疑われる事案を発見した場合は、すぐに学年間で共有し、丁寧に聞き取り、対応する。(学年主任→生徒指導主任→教頭・教務→一学年長とチームによるライン対応を行う。)						
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・どの児童に対してとも傾聴とともに進んで話しかけ、児童をよく観察し、その児童に応じて褒めていくようにする。 ・地域や他機関と連携を進め、主体的に未来を思い描けるような学習活動を設定していく。						
	○主体的に教育活動に取り組む児童の育成	○「児童が主体的に取り組めるように、学級活動や学校行事の内容を工夫している」と回答した教員100% ○「自分で決めてチャレンジしている」と回答した児童が70%以上	・これまでの実践や今年度行う取組を提案する。その際、取り組みやすいように学年に応じた話し合いの型、議題なども紹介するようにし、情報共有の機会を設ける。 ・行事、教育活動を児童の出番を増やし、児童が主体的に取り組めるような提案を行う。						
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上、もしくは晴天時に外遊びをしているの児童が65%以上 ○「運動やスポーツが楽しい」と回答した児童が80%以上	・児童と運動のかかわりを深める体育科学習の充実と外遊びの奨励。 ・委員会活動によるスポーツチャレンジの実施と学級での取組の充実。						
	○危険回避能力の育成	○「災害に備えた防災教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%	・安全・防災教育年間計画を作成し、適切な時期に効果的な安全・防災教育を行う。 ・計画した安全・防災について、パワーポイントを使い全学級で授業を行う。その中で、全ての教室で共通実践がなされ、さらに指導が毎年蓄積されるようにし、全職員、全児童の安全、防災に対する意識の向上を図る。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・全職員の平均が45時間以内になるよう、毎日19時までの退勤を目指し声をかけ、月末には個人の集計の結果を知らせる。 ・「Googleフォーム」によるアンケート調査や「サイネット」掲示板の活用を推進する。 ・行事等について、半期ごとに見直し、教育的価値、教育効果を考え精選していく。						
	○働き方を考え改善していく意識づくり	○「優先順位を考えた働き方ができた」と回答した職員が80%	・時間外業務を減らすため、各担当に早め早めの提案を心掛けさせ、個々で計画的な業務遂行にあたらせる。						
●特別支援教育の充実	○全職員での情報共有と校内支援体制の確立	○特別支援に関する専門性が向上したと答えた教員90%以上	・学期に2回以上、特別支援教育に関わる研修会や外部機関との支援会議、巡回指導を実施し、理解したことを実践化につなげる。 ・月に1回、特別支援チームの研修の場を設定し、チームで対応・対策を考える。 ・校内支援委員会を中心に、職員連絡会やケース会議でも定期的に全職員による情報共有の機会を設ける。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)							
○愛郷心の育成	○地域人材の活用と体験や交流、発信活動の充実	○「武雄市や朝日町のよさ(じまん)を知っている」と回答する児童90%以上	・あさひ公民館、あさひこども園や老人会との連携交流、など、子どもたちが主体的に地域と関わることができる学習課題を設定する。(各学年1回以上)						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--